

平成 30 年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

東温市教育委員会

1 取組の目的

この事業は、児童生徒等を取り巻く多様な危険を的確に捉え、児童生徒等の発達段階や学校段階、地域特性に応じた取組を展開し、地域や関係機関等との連携を促進することにより、地域全体にその成果を普及・推進するとともに、継続的で発展的な学校安全に係る取組を地域が一体となって進めることができる体制を構築するために実施する。

2 取組の内容

(1) 避難訓練等

①地震避難訓練（5月16日）

緊急地震速報を活用した避難訓練を実施した。できる限り倒れてくるものがない場所で、低い姿勢をとり（ダンゴムシのポーズ）、頭部を守る訓練を実践した。

また、避難経路と集合場所の確認を行った。



【頭部を守る】



【ダンゴムシのポーズ】



【非常階段を使用】



【避難場所に集合】

②引き渡し訓練（5月29日）

上林小学校の近くに位置している上林保育所と合同で、保護者への引き渡し訓練を実施した。地震が発生したという想定で、小学生は運動場に避難した。上林保育所の園児は教職員引率のもと小学校運動場へ避難し、兄弟姉妹と一緒に保護者へ引き渡しを行った。なお、保護者には事前に実施日時を連絡した。



【避難行動1】



【避難行動2】



【校長へ報告】



【図書室で待機】



【ダンゴムシのポーズの指導】



【保護者への引き渡し】

③上林地区総合防災訓練（１２月２日）

東温市総合防災訓練において、上林区でも総合防災訓練を実施した。避難訓練後、東温消防署員の指導で心肺蘇生法の講習会を行った。地域住民・保護者・児童や園児らが多数参加した。



【住民避難開始】



【体育館に避難】



【止血法】



【心肺蘇生法】



【手当の仕方】



【非常食】

④シェイクアウトえひめ（１２月１７日）

県下一斉に実施された「シェイクアウトえひめ」では、「まず低く = DROP！ → 頭を守り = COVER！ → 動かない = HOLD ON！」の安全確保行動を約１分間実施し、「自分の命は自分で守る」行動がとれるよう訓練した。



【避難行動の様子１】



【避難行動の様子２】



【避難行動の様子３】



【避難行動の様子４】

⑤不審者対応訓練（１月１６日）

参観日に合わせて「不審者対応避難訓練」を実施した。

愛媛県警察本部の方が不審者役となり、教職員の対応の方法や児童の避難方法等について訓練を行った。その様子は保護者にも参観してもらった。「自分の命は自

分で守る」ことは、大災害時と同様、小学生の段階から繰り返し指導していく必要があり、保護者と共に防災・防犯について考えるよい機会となった。



【不審者への対応】



【保護者も参観】



【不審者対応教室】



【いかのおすしの練習】

（２）先進地視察（８月１日～２日）

２０１６年（平成２８年）４月１４・１６日に発生した熊本地震に関する先進地視察を東温市教育委員会学校教育課職員１名、東温市総務部危機管理課職員１名、上林小学校教員２名で行った。視察したのは熊本市立本荘小学校、熊本市教育委員会教育政策課、熊本市政策局危機管理防災総室である。

①熊本市立本荘小学校

校長室において、管理職より熊本地震発生直後の状況について説明を受けた。熊本地震が発生した４月１４日２１時２６分、たまたまＰＴＡ役員会で時間外に校長・教頭とも学校にいた。発生直後から避難者が学校に多数訪れていたが、余震が続いていたため、校長が建物の中に入れるのは危険と判断し、二次災害回避のため、避難者を体育館や校舎内に入れなかった。地震発生から１時間後には約２００人近い人が運動場で待機しており、教頭と手分けして避難者対応と同時進行で、職員の安否確認と学校への参集等を要請した。



【現在の防災倉庫】



【避難所となった体育館】



【屋上プールより水運搬】

時間が経つにつれ 携帯電話・固定電話がつながりにくくなり（ラインやメールは使用可能）、市教委にも連絡、状況を説明したが、市教委も大混乱で指示が出せるような状況ではなく、現場（校長）判断で動かざるを得ない状況だった。２２時３０分過ぎ目視安全確認後、体育館を開場した。毛布等の絶対数が不足しており、ハンドマイクにより体育館ステージから本荘小学校長であることを名乗り、小さな子や高齢者を中心に毛布を使うよう伝えた。児童の安否確認、住居の損壊状況確認は翌日（４月１５日）以降にしか行えない状況であったなど、厳しい状況がひしひしと伝わってきた。災害時には、教員や市の職員等は現場に行けないので、住民で避難所を運営しないといけない。「共助」の大切さを話されていた。

②熊本市教育委員会教育政策課・熊本市政策局危機管理防災総室

熊本市教育委員会教育政策課では、休校等の対応は市教委が決定したが、学校が保護者へメールを配信し、未加入者には電話連絡したこと等の説明を受けた。

また、熊本市内の学校施設の被害状況の一部も紹介を受けた。



【学校施設被害状況 1】



【学校施設被害状況 2】



【学校施設被害状況 3】



【学校施設被害状況 4】

(3) 手つなぎ防災ひろば（10月30日）

上林小学校において、日本赤十字社愛媛県支部の実施している事業を活用し、連携して「手つなぎ防災ひろば」を開催した。防災講座、炊き出し訓練、応急手当の方法等について学んだ。児童、保護者、教職員、地域住民（上林公民館長他）、日本赤十字社、東温市危機管理課、東温市学校教育課、東温消防署など、計70名が参加した。

事前に「手つなぎ防災ひろば」のパンフレットを保護者に配布するとともに、上林区合同協議会及びホームページで周知し、取組への参加を呼び掛けた。

はじめに日本赤十字社愛媛県支部の方の指導の下、炊き出し訓練・非常食作り（ハイゼックス）を実施した。



【非常食作りの様子 1】



【非常食作りの様子 2】



【応急手当の仕方 1】

その後、体育館にて防災講座を行い、災害時における応急手当の仕方等を体験しながら学んだ。運動場では、ハイゼックスで炊いたご飯を使ったカレーライスを試食した。



【応急手当の仕方 2】



【非常食の試食 1】



【非常食の試食 2】

「手つなぎ防災ひろば」を実施したことにより、関係機関との連携を図ることができ、防災教育推進の基盤作りができた。また、保護者や地域住民と防災について考えるよい機会となり、避難所運営など地域とのつながりを深めるとともに、防災に対する意識を共有することができた。



【みんなで協力1】



【みんなで協力2】



【みんなで記念撮影】

(4) 地域安全マップ作成（11月29日・12月12・17日）

11月29日には、東温市学校安全アドバイザーとして委嘱した愛媛大学防災情報研究センター 客員教授・名誉教授である高橋治郎先生を講師として、児童と通学路（谷・五本松方面）を実際に歩いた。上林のよさに気付かせるとともに、危険箇所にも目を向けさせた。全校児童27名・教職員6名・東温市教育委員会学校教育課1名が参加した。

子どもたちが上林のよいところを紹介しながら歩き、高橋先生からは危険箇所について学ばせていただいた。そして、「まず自分の住んでいる地域を知ること」の大切さについても教えていただいた。また、上林の地名の「土山（どやま）」など、なぜその名がついているかを調べたり考えたりすることや、常にこの地域だけで生活しているのではなく、災害が起きたとき、「今自分がいる場所は・・・。」と周りを見て判断する必要性についても教えていただいた。これから生きる子どもたちにどのような力を付けていかなければならないか考えさせられた。



【授業の様子1】



【授業の様子2】



【授業の様子3】



【授業の様子4】



【授業の様子5】



【授業の様子6】



【授業の様子7】



【授業の様子8】

12月12日には集団下校を利用し、通学路（花山・二之瀬方面）で同じく地域のよさに気付かせるとともに、危険箇所についても考えた。



【もし電柱が倒れたら】



【石垣は大丈夫】



【ブロック塀に注意】



【大雨時の用水路に注意】

12月17日に3～6年生で地域安全マップの作成をした。先日現地で発見した地域のよさを再確認するとともに、地域の危険箇所の把握や、危機管理意識の向上を図ることができた。完成した地域安全マップは、現在、児童の目に付きやすい場所に掲示している。



【地域安全マップ作成1】



【地域安全マップ作成2】



【地域安全マップ作成3】



【地域安全マップ作成4】



【地域安全マップ作成5】

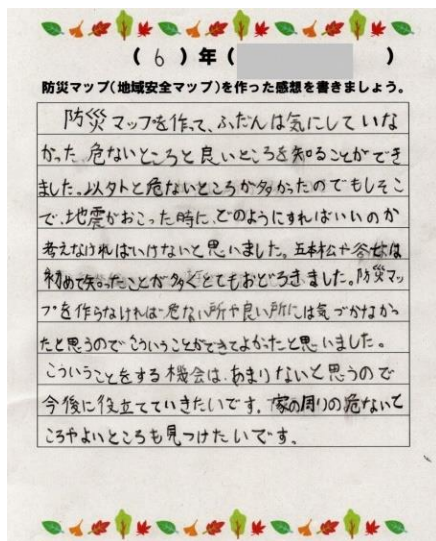


【地域安全マップ作成6】

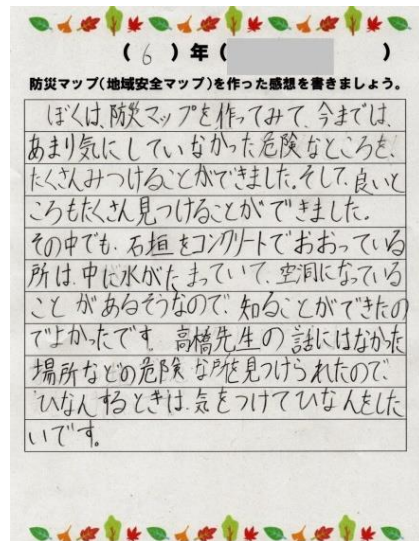


【完成した地域安全マップ】

地域安全マップ作成後の児童の感想には、「普段は気にしていなかった危ないところとよいところを知ることができました。意外と危ないところが多かったので、もしそこで地震が起こったときにどのようにすればいいのか考えなければいけないと思いました。」等があった。児童に、地域の危険箇所の把握や、防災に対する意識の向上が見られた。



【児童の感想 1】

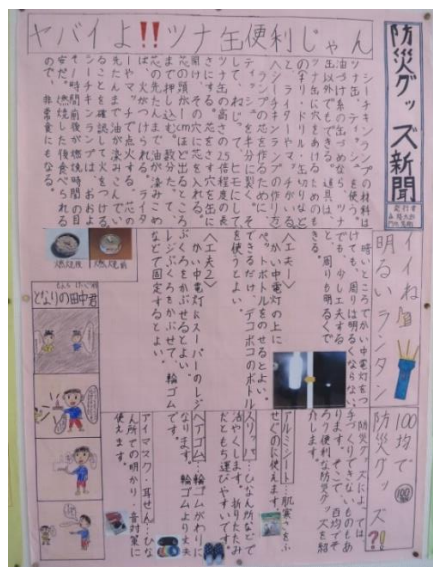


【児童の感想 2】

地域安全マップ作りを行うことで、防災に対する意識が高まり、5・6年生が「もっと災害について・防災について調べたい」という思いをもち、防災新聞作りを総合的な学習の時間に行った。



【防災新聞 1】



【防災新聞 2】



【発表の様子 1】



【発表の様子 2】

3 取組の成果

- ① 児童は、避難訓練を何回も実施することにより、「自分の命は自分で守る」ために、頭部を守る姿勢や行動を自然に身に付けることができた。
また、上林区総合防災訓練では、地域住民の防災への意欲付けができた。
- ② 先進校視察を終えて、災害はいつ起こるか分からないので、そのための準備の必要性を感じるとともに、災害時は想定外のことが起こりうるため、自助・共助の大切を改めて考えさせられた。
- ③ 手つなぎ防災ひろばを実施することにより、児童や教職員、保護者や地域住民等の防災への関心がより一層高まった。関係機関と連携を図ることができ、防災教育推進の基盤作りができた。
また、地域住民や関係機関も含めて防災について考えることで、地域のつながりが深まるとともに、防災に対する意識を共有することができた。（共助）
- ④ 地域安全マップ作りを通して、発達段階に応じて、普段通っている通学路で大地震が起きたとき、どのように自分の命を守るのかを考えるよいきっかけとなるとともに、改めて自分の住んでいる地域のことを知ることができた。（自助）

4 今後の課題

- ① もし災害が起こった場合、上林区では津波被害は発生しないが、崖崩れ・土砂災害・家屋等の倒壊や、道路寸断による孤立が考えられる。そのため、避難所運営等は地域住民で行う必要がある。上林区は人と人とのつながりが強く、互いに助け合う共助を行いやすい地域と考えられるが、想定外の被害も起こりうるので、常に防災への関心を高めておく必要がある。
- ② 児童が実践を通して学んだことを、家庭・地域に伝え、上林区全体の防災意識の向上につながるよう、普段から意識し行動できる児童を育てていかなければならない。
また、災害時に自分の命や身近な命を守ることができる児童を育てるために、普段の学校や地域での生活の中で、大人・子ども関係なくつながりを深められるような活動の場を構築していく必要がある。